

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (杉の子特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立や社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちが持てるなど、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の専門性が高く、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教職員 ・ 対話・会話を大切にし、組織力の向上をめざす教職員 ・ 防災対策や・防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教職員 ・ 関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導と支援を推進していく教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童・生徒〉 様々な体験や自立、社会参加に向けての教育 一人ひとりが活かされる仲間づくり</p> <p>〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けての教育 進路先の確保</p> <p>〈地域の学校・関係機関〉 特別支援教育のセンター的機能</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育</p> <p>〈地域の学校〉 交流を通しての共生・共学の理解と推進</p> <p>地域の特別支援教育のセンター的機能</p> <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 情報提供や障がい者理解に向けた支援</p>	<p>〈保護者〉 目指す学校づくりへの理解と協力</p> <p>〈地域の学校〉 交流を通しての様々な活動や体験 施設・設備の効果的な活用、相互利用の促進</p> <p>〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 現場実習の受け入れ及び就労実現 職業授業への情報やノウハウの提供 放課後等の利用、卒業後の入所 就労や施設利用に関する情報の提供 社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者差別解消法が施行になるので、これを機会に生徒の卒業後の選択肢が増える ・ 本校から分校への進学等に不安を感じる保護者がいる。連携・情報共有が進むとよい。 ・ 日々の業務が多忙だと思うが、人権推進計画の見直しは、ぜひとも推進していく必要がある。 ・ 引き渡し訓練等の参加が低いので、もっと保護者の協力が求められるようにPRして、訓練の参加率を引き上げる必要がある。 ・ センター的機能の充実で、地域の学校で全職員対象の研修会等を開催してほしい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>キャリア教育の視点に立った一貫した教育内容の充実や地域等と連携したキャリア教育を推進する必要がある。</p> <p>大地震の発生が予想されることから、大規模災害に備えた防災対策、防災教育の充実を図る必要がある。</p> <p>安全で、より良い生活を送るために必要な防犯教育や主権者教育を推進していく必要がある。</p> <p>人権教育の視点で教育活動を捉え直す必要がある。</p>
	学校運営等	<p>本校と分校があり、本校には四つの教育課程があることから、本校・分校間や校内での連携や情報共有が必要である。</p> <p>専門性の向上を図るとともに、特別支援教育におけるセンター的機能を果たす必要がある。</p> <p>年々、生徒数が増加しており、学級数並びに職員数も増加しているため、組織も複雑化し、業務内容も増えているため、職員の総勤務時間も増加する傾向にある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立った計画的で一貫した教育活動と地域等と連携したキャリア教育を推進する。 大地震等を想定した防災対策、防災教育を推進する。 安全で、より良い生活を送るために、防犯教育や主権者教育を推進する。 人権感覚あふれる児童生徒の育成のため、人権教育を推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で情報や課題の共有を図り、学校の組織力を高め、問題解決に取り組む。 専門性の向上を図るため研修を推進することで、児童生徒のニーズに合った指導・支援を行うとともに、特別支援教育のセンター的機能を果たすため、地域の学校や関連機関と協働し、効果的な支援を高める。 学校運営の効率化を図り、総勤務時間の縮減に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○キャリア教育の推進	・「杉の子特別支援石薬師分校版キャリア教育プログラム」を活用した授業の実施(研修部)	校内研修会等を通じてプログラムを意識した授業展開について検討を行い、プログラム内容が授業に生かせるものであるかを確認した。	◎
○防災教育の充実	・生徒の防災学習2回、地震初期対応訓練2回、火災と地震を想定した訓練2回、下校時における災害対応訓練1回	石薬師高校との合同避難訓練や本校と合同で下校時の災害時対応訓練を行うことで生徒だけでなく、保護者も含めて防災意識を高めた。	◎

改善課題

・キャリア教育プログラムについては、教科間のつながりや卒業後の進路先への展開について検討を行うまでには至らなかった。また、本校からの学びの連続性についても課題が残った。そのため、次年度は、校内にキャリア教育推進委員会(仮称)を新たに設置し、さらに検討を深めたい。

・防災教育については、定期的な訓練を通じて生徒・保護者・教職員の防災意識を高めることができつつある。ただ、訓練等を通じて、実際の災害時において課題となる点が、その都度出てきているので、

今後も日々の学習と訓練を繰り返し、その克服に努めたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○資質向上の取組み	・「卒業後を見据えた職業教育の在り方について」を学校の研修テーマに位置づけ、指導の見直しを図る。(研修部)	校内研修会を定期的実施し、その成果と課題を研究集録としてまとめた。	◎
○情報共有による組織力の向上	<p><本校分校の連携に関わって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関わる本分連携会議の実施(進路部) ・教育課程研修会の実施(研修部) <p><学校全体・各学年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりの全体で回覧し、情報共有を進める。(学部主事) <p><石薬師高校との連携に関わって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な打ち合わせを実施。(学部主事) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関わる本分連携会議は年間 3 回実施。 ・教育課程研修会を本分合同で年間 2 回実施。 ・発行された学年だよりは、すべて回覧し、職員全員で共有した。 ・石薬師高等との打ち合わせ会は年間 35 回実施。 	※
○情報提供による信頼の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの充実。(総務部) ・進路だよりの定期的な発行。(進路部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP は、生徒が写った画像の取り扱いについて課題がでたため、一時、運用を制限した。 ・進路だよりは、定期的発行し、本校との情報共有も行った。 	※
○センター的機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や就学に関する教育相談など、センター的機能の充実を目指す。(支援部) ・地域のニーズを把握し、小中学校や関係機関の関係者を対象に一日体験研修や夏季研修講座を開催する(支援部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談15件、就学相談に関わる相談40件。 ・一日体験研修や夏季研修講座は、参加者から「良かった」という評価を多く得ることができた。 	※
○働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の業務遂行の満足度の向上、生徒増並びに職員増に伴って増加・複雑化した業務内容や学校行事等の整理を行う。(学校企画委員会) ・定時退校日の実施。(学校経営品質委員会) ・オフサイトミーティング(学校経営品質委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校企画委員会を通じて校務分掌の業務の整理と再編を行った。また、各業務内容を重要性や緊急性の観点からランク付けをして仕事が特定の職員に偏らないような仕組みづくりを行った。 ・定時退校日は、毎月1回をメドに実施した。時期によっては、完全実施が難しい月もあった。 ・オフサイトミーティングを開催し、教職員の声を聞き、業務の改善に役立てた。 	※

改善課題

- ・最も重要な学校課題として、生徒の進路希望や各自の課題に応じた学習内容を受けられるように授業「職業」のしくみを1年かけて検討し、変更した。新年度から新しいしくみで取り組むことになるので、実施後の検証に引き続き取り組んでいきたい。
- ・本校や石薬師高校との情報共有は、年度が経過するごとに円滑になってきているが、互いの児童生徒のため、さらに連携を図っていきたい。
- ・情報発信については、ホームページを刷新することで、保護者、入学希望者、鈴鹿亀山地域の方に分校の取り組みをよりわかりやすく伝えることができるようになりたい。また、学校の取り組みを広く知っていただく機会として、一日体験研修や夏季研修講座は引き続き実施していきたい。加えて学校見学会や就学相談等について、中学校への周知の方法を工夫していきたい。
- ・働きやすい職場づくりにおいては、今年度は現状分析と新たな仕組みや取り組みを始めたところであるので、次年度、その効果について検証し、さらに働きやすい職場が実現するようになりたい。

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・来年度は「職業」のしくみが大きく変わるため、生徒及び保護者も不安があると想定される。そうした不安を払拭するためにも保護者等との情報共有を綿密に行ってほしい。・生徒の卒業後の生活をふまえて、企業や福祉施設で働く（生活する）姿を想定して、日々の指導体制を考えてほしい。・防災教育については、学校だけでなく、家庭でも取り組むことが必要であると考えるので、生徒が学んだことを連絡ノートや通信等で家庭に丁寧に伝えるなどの積極的な情報発信を行ってほしい。・教職員がゆとりのある勤務ができることが、生徒の成長にも有効であると考えるので、「ほっとできる場所や時間」に関する満足度が上がるように、いろいろな取り組みを考えてほしい。
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・「職業」や現場実習等の進路に関わる行事の見直しについては、保護者や関係機関と連携し、生徒が卒業後に豊かな生活が送れるよう職業教育の充実を図りたい。・「政治的教養を育む教育」や「命を大切にする教育」等の新しい教育課題や生徒指導に関わる課題も含めた道徳教育の充実に向けて、指導計画の立案をし、様々な授業場面計画的に取り上げていきたい。・防災教育は、これまで校内に加えて通学時に被災したことを想定した訓練等を実施し、生徒の意識を高めてきた。今後もこれらの取組については引き続き実施することで、課題の抽出に努めていきたい。また、家庭で被災した際にも落ち着いて対処ができるように、こうした取組を通信等を通じて定期的に家庭にも周知していきたい。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・平成28年度は、校務分掌や各種委員会等の組織の再編を行った。次年度は、新体制で業務を行うことになるため、組織が再編時に想定した通りに機能しているかを全職員で定期的に点検し、「働きやすい職場」を目指してさらなる改善につなげたい。・業務内容の見直しや定時退校日の取組を通じて総勤務時間の縮減に取り組んできたが次年度は、生徒一人ひとりの課題を解決するために必要な授業者の数も含めた授業等の見直しを進めて、授業等に関わる準備時間を増やすことを検討したい。さらに、その完全実施を目指した取組を進めたい。